2021 年度　　授業概要

科目名	画像診断学				授業の種類	講義	講師名	
授業回数	8 回	時間数	15 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年時期	2年 後期

【授業の目的・ねらい】
画像解析の発達によって、作業療法士が臨床の現場で、画像に接する機会が増えている。そのような臨床において、現病歴・生活歴・臨床所見・血液データ等と合わせて、画像読影を適切にできることが、リスク管理、良質な作業療法計画の立案に重要であると考える。「臨床で使える画像読影」を身につけることを目的に実施する。

【実務者経験】

【授業全体の内容の概要】
総論では、画像診断学の重要性、使用される主な機器の特徴について学ぶ。各論では脳疾患を中心に、整形疾患、内部疾患について学ぶ。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】
画像診断学の重要性について理解できる
疾患から見るべき画像の種類を選択できる
疾患の画像読影で、解剖と機能の関連性を説明できる

回数	講義内容	準備物(教材)
1	総論（画像診断学の重要性、使用する主な機器の特徴） 脳画像（脳画像の種類の特徴）	ﾌﾟﾘﾝﾄ
2	脳画像（血流支配領域、解剖、機能局在、脳出血）	ﾌﾟﾘﾝﾄ
3	脳画像（脳梗塞）	ﾌﾟﾘﾝﾄ
4	脳画像（くも膜下出血、脳外傷、認知症）	ﾌﾟﾘﾝﾄ
5	脳画像（神経難病、脳腫瘍）	ﾌﾟﾘﾝﾄ
6	整形画像（脊髄・脊椎疾患、骨関節疾患等）	ﾌﾟﾘﾝﾄ
7	整形画像（骨関節疾患）	ﾌﾟﾘﾝﾄ
8	内部画像（肺疾患、消化器疾患等）	ﾌﾟﾘﾝﾄ
	定期筆記試験	

【使用教科書・教材・参考書】
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学別巻　脳画像　医学書院

【準備学習・時間外学習】
ノート作りを課題とし、小テストを実施する。
復習を必ず行い小テスト対策を実施すること。

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】
試験の結果を100点満点として成績を評価する
小テスト45点、定期試験45点、課題の評価10点として合計100点とする
60点以上の場合に科目を認定する